

グラフ：(リトグラフの原理を理解するのにも最適)

〔制作工程〕

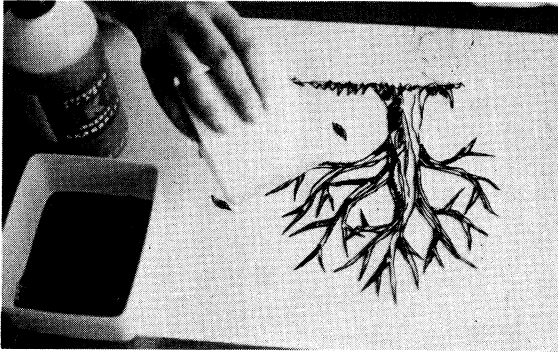
- (1) 版材「すりガラス」のざらざらな面を揮発油で拭き、洗剤で洗う。(油脂分の除去)
- (2) クレヨン、油性マジックで描画する。
- (3) 版面に水分を与える。(スポンジに水を含ませ、軽く絞り使用)
- (4) 油性インクを盛る。(版面が乾いていないことが大切)
- (5) 紙をのせ、木版用パレンで刷る。

※すりガラスのざらざらな面は、保水性があること、クレヨンなどの描画材がすべらず、付着することなどから版材に利用できる。

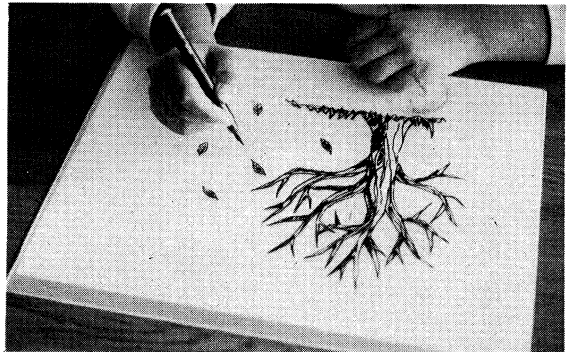
※リト(石灰石)についても、発明時はこの方法だったと推測される。リトは、大理石の一種で炭酸カルシウムが主成分である。石には細孔があり、保水性がある。ドイツのバイエルン地方、ゾルンホーフ産が良質とされる。

II、PCC原紙を利用した簡易なリトグラフ：(ここでは、さらに安定した「版づくり」のための簡略な「製版」の方法による)

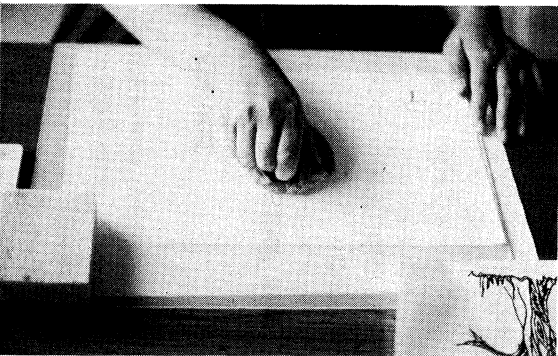
- (1) 「すりガラス」のリトグラフの工程(1)~(2)に同じ。
- (2) 全面にアラビアゴム液(リト液：リトペーパー用に開発市販)をスポンジで塗り、乾かす。(簡略な製版)
- (3) 水のかわりにリト液で版面を湿ら



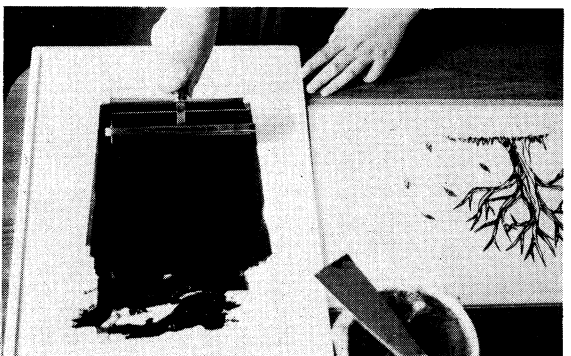
②「簡易製版」(アラビアゴム液使用)



①「描画」すりガラス(油性ペン使用)



④「刷り」(パレン使用)



③「インク盛り」

す。

- (4) 「すりガラス」(4)~(5)の工程に同じ。(エッチングプレス機も使用可)
- ※リト液は、描画材の油脂分と化合し、インクの付着を増大させ、版を安定させる)

※リトペーパーについても同じ工程である。簡易なリトグラフ制作のため開発市販されたもので、表面が薬品処理されている)

III、アルミニウム板(砂目立て、バット処理)を利用したリトグラフ：

(ここでは、I・IIの簡易なリトグラフの技法を更に発展させ、「確実な版づくり」の方法による)

- (1) 「アラビアゴム液(SK液)で版の周囲」(一センチメートルぐらいの幅に筆かスポンジで塗る。描画部分小さいものは、その周囲も塗る。指紋などの版汚れ防止のためである)
- (2) 「アラビアゴム液」の乾燥確認。
- (3) 描画する。(描画材で版に直接描いてもよいが、準備した下絵をもとに次の方法もある)

(a) 直接描画法

- ・木炭、白墨など油脂分のないもので軽く「あたり」を付け、描画材で描く。
- ・弁柄、木炭、白墨などを下絵の裏面にこすり込み、版材にのせ、表面から鉛筆などで「絵とる」
- ・弁柄などを全面にこすりこんだ「カーボン紙」のようなものを準備し、下絵と版の間に置き、「絵とる」(ト